

答 弁 書

特許庁審査官 伊藤 幸仙 殿

1. 国際出願の表示 P C T / J P 0 3 / 0 7 2 2 7

2. 出願人

名 称 プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

PRECISION SYSTEM SCIENCE CO., LTD.

あて名 〒271-0064

日本国千葉県松戸市上本郷 8 8 番地

88, Kamihongou, Matsudo-shi, Chiba 271-0064, Japan

国 籍 日本国 J A P A N

住 所 日本国 J A P A N

3. 代 理 人

氏 名 (7 5 1 9) 弁理士 土 橋 皓

DOBASHI Akira

あて名 〒105-0001 日本国東京都港区虎ノ門 1 丁目 1 7 番 3 号
第 12 森ビル 6 階

6F, No.12 Mori Building, 17-3, Tranomon 1-chome,

Minato-ku, Tokyo 105-0001, Japan

4. 通知の日付 2 3 . 0 3 . 2 0 0 4 (発 送 日)

5. 答弁の内容

1) 見解書の内容

見解書 (発 送 日 2 0 0 4 年 3 月 2 3 日 付) に よ る と 、 本 願 請 求 の 範 囲 1 , 4 ,
7 , 9 , 1 1 は 、 文 献 1 (J P 2 0 0 2 - 1 4 9 8 3 0 A) に 基 づ い て 新

規性および進歩性を有さず、請求の範囲 2, 5 については、文献 1 および文献 2 (JP 2000-503556 A) に基づいて進歩性を有さず、請求の範囲 3 については、文献 3 (JP 2000-139844 A) に基づいて新規性、進歩性を有さず、請求の範囲 6 については、文献 1 および文献 4 (JP 11-197121 A) に基づいて進歩性がなく、請求の範囲 10 は、文献 1 および文献 5 (JP 2001-103134 A) に基づいて進歩性がなく、請求の範囲 12, 13, 15 については、文献 1 と文献 6 (JP 2002-24400 A) に基づいて進歩性がなく、請求の範囲 14 については、文献 1 と文献 7 (JP 2002-92179 A) に基づいて進歩性がない旨指摘されている。また、請求の範囲 8 については、当業者にとって自明な物ではない旨指摘されている。

一方、請求の範囲 8 については、当業者にとって自明なものではない旨指摘されている。

2) 本願発明の内容

本願発明は、補正後の独立請求の範囲 1 に記載されているように、「使用者が携帯可能な装置であって、使用者の食物摂取内容を含む生活データの入力可能な入力部と、該生活データを含む基礎データを読み出し可能に格納するデータ格納部と、データの表示を行う表示部とを有し、前記入力部は、前記食物摂取内容を入力する場合には、使用者の食生活に合わせたパターンを設定し、各食物ごとに一定単位量に分けて選択可能としたことを特徴とする携帯端末装置」である。

この補正の根拠は、見解書において自明なものでないとされた当初請求の範囲 8、当初明細書第 7 頁第 26 行～第 8 頁第 24 行、および当初明細書第 20 頁第 29 行～第 21 頁第 24 行の記載に基づくものであり、新規事項の追加はされていない。

また、補正後の請求の範囲 8 については、当初請求の範囲 8 の主要な内容を補正後の請求の範囲 1 に挿入したために、請求の範囲 8 が従属している独立請求の範囲 1 の語句を限定する表現に改めたものであり、新規事項は追加

されていない。

3) 各引用文献と本願発明との対比

本願発明では、前述したように、使用者の食生活に合わせ、例えば、使用者の生活習慣に基づいて摂取する食物や、特殊条件における食物に基づいて予めパターンを設定し、かつ各食物ごとに一定単位量に分けて選択することができる。ここで、生活習慣または特殊条件に基づいたパターンとしては、例えば、食物を、朝、昼、晩ごとのグループに分けたり、食物を、生活習慣に基づく摂取の頻度や可能性または嗜好に合わせてグループ分けをしたり、各種の特殊条件下、例えば、結婚式等の会合やホテル、旅行等ごとに食物をグループ分けをすること等が明細書に開示、示唆されまたは考えられる。

一方、引用文献1は、「健康管理方法、アドバイス装置および健康管理システム」であって、その段落0059には、「食事内容の応答要請があった場合、健康管理対象者はその日の食事メニューを回答として入力部410の生活内容データ入力部406より入力する(S805)」旨の記載はあるものの、食生活に合わせたパターンを設定して、各食物ごとに一定単位量に分けて選択する点の開示または示唆はない。

引用文献2は「患者の血液サンプルの血糖値測定と予測による患者の健康状態のモニター方法」であって、食事摂取内容の入力に関する開示または示唆はない。

引用文献3には、「携帯可能な自己管理装置」であって、その段落0005には、「食事摂取量などの生活データを入力する入力手段」の記載はあるものの、食生活に合わせたパターンを設定して、各食物ごとに一定単位量に分けて選択する点の開示または示唆はない。

引用文献4は、「健康診断装置」であって、食事摂取内容の入力に関する開示や示唆はない。

引用文献5は、「多機能携帯電話機及び携帯電話機を用いた測定器具」に関するものであり、食物摂取内容を入力する点の開示はない。

引用文献6は、「ダイエット情報提供システム」であって、その段落01

09には、「多数の食べ物のメニューが、文字列と簡易画像によって示されている」旨の記載はあるものの、食生活に合わせたパターンを設定して、各食物ごとに一定単位量に分けて選択可能とした点の開示はない。

引用文献7は、「カロリー管理サービスシステム」であって、その段落0018には、「入力手段4により入力したユーザーの情報（例えば、摂取食品種やその量…）」の旨の記載はあるものの、使用者の食生活に合わせたパターンを設定し、各食物ごとに一定単位量に分けて選択可能とする点の開示または示唆はない。

4) むすび

以上説明したように、補正後の請求の範囲1に係る本願発明と各引用文献に記載された発明とは構成上相違する。この相違によって、本願発明では、使用者の食生活に合わせたパターンの設定や一定単位量ごとの選択によって、使用者による食物の入力作業の負担を軽減し、使用者が長期にわたって食物入力を続行することを可能とし、長期にわたるデータの蓄積や解析を可能にして、生活習慣や、食生活の偏りや傾向を的確に把握できる。また、使用者の食生活の改善、使用者の嗜好や環境の変化に合わせて変更したパターンを設定すれば実情に合った入力を行うことができる。

このような顕著な効果を奏する以上、補正後の請求の範囲1に係る本願発明は、各引用文献に対して、新規性および進歩性を有するものと思料する次第です。また、補正後の請求の範囲1が新規性および進歩性を有するものである以上、それに従属する請求の範囲2乃至請求の範囲15についても新規性および進歩性を有するものと思料する次第です。

よって、新規性、進歩性および産業上利用可能性ありとの国際予備審査報告をなされるようお願い致します。

以上